

きのくに自主防災



(県で所有している地震体験車「ごりよう君」)

第12号(平成25年3月号)

<発行元>

和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局

(県庁総合防災課内)

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

TEL: 073-441-2271

4県連携自主防災組織交流大会が開催されました!

4県連携自主防災組織交流大会とは?

東海・東南海・南海地震により、甚大な被害が予想される4県(三重県、和歌山県、徳島県、高知県)の自主防災組織同士が交流を図り、今後の継続的な活動を行うために有効な先進事例を学ぶため、各県の自主防災組織関係者が集まり、「4県連携自主防災組織交流大会」として毎年4県で順に開催しています。

今年度の交流大会は三重県で開催

今年度の交流大会は、平成24年12月8日(日)に三重県川越町中央公民館で開催しました。

この日は、「三重県自主防災組織交流会」と併せて開催し、各県の自主防災組織代表者の他に三重県の自主防災組織の方々が集まりました。

交流大会では、各県の自主防災組織代表者からの事例発表と自主防災組織代表者と会場参加者を交えたパネルディスカッションが行われました。



(4県連携自主防災組織交流大会 会場の様子)

県からは海南市昭成町自主防災会が参加!

和歌山県からは、海南市昭成町自主防災会 谷井正明 会長が県の代表として参加しました。

谷井会長は、事例発表の中で、地元の海南市立黒江小学校と連携した津波避難訓練の取り組みをはじめ、様々な取り組み事例について紹介しました。



(事例発表の様子)

また、その他に各県の自主防災組織代表として以下の団体から事例発表がありました。

- ・ 平島地区自主防災会(徳島県石井町)
- ・ 興津地区自主防災組織(高知県四万十町)
- ・ かめやま防災ネットワーク(三重県亀山市)

次のページからは、昭成町自主防災会をはじめ、交流大会で各県の自主防災組織代表者が発表した活動事例について紹介します。

○事例発表

昭成町自主防災会 (和歌山県海南市船尾)

昭成町自主防災会の理念

【地域力は防災力につながる】

東海・東南海・南海地震など大規模災害に備えるには、地域住民が一体となり防災対策を行うことが必要です。

そのため、昭成町自主防災会では、「遠くの親戚より近くの隣人」普段から住民の間で助けあう姿勢を大切に、「絆」と「支え」により地域の防災力向上を目指しています。

【津波から逃げろ！「津波避難の原則」】

昭成町では、津波からの避難が最大の課題です。命を守るために「逃げる！」ということをも重点に日々活動に取り組んでいます。

津波に対するモットーは

- ① 1分1秒でも早く(もっと早く)
- ② 1ミリでも高いところへ(もっと高いところへ)
- ③ 1ミリでも遠くへ(もっと遠くへ)

“逃げるが勝ち”で早めの避難を心がけています。

訓練の住民全員参加実現のために

【避難訓練はレクレーションと一緒に！】

住民の方々に継続して参加してもらうため、訓練と併せて毎回違う内容で防災関連のレクレーションを行ってきました。

レクレーション内容は、長期保存パンの試食体験や、簡易トイレの作り方講習、乾パンの掴み取りなど、大人も子どもも一緒になって楽しく訓練に参加してもらいました。

【訓練の広報は2ヶ月前から準備】

住民全員に訓練に参加してもらうため、2ヶ月前から訓練実施日を決定しています。そして、1ヶ月前には回覧板を回し、1週間前には戸別にチラシを配布し、住民の方々に周知徹底を行っています。

黒江小学校と連携した津波避難訓練

2年前から地元の海南市と海南市立黒江小学校と協力し、津波避難訓練を行っています。

この訓練は、黒江小学校の児童が家屋の倒壊や道路の崩壊を想定し、訓練開始前、朝早くからバリケードで避難経路や避難場所を封鎖して使用不可能にし、住民には通行不能箇所などを一切知らせず「想定外への対応力を身につける」ということに特徴があります。

また、小学生や地域住民の中から、けが人などの災害時要援護者役を設定し、地域の助け合いによって避難訓練を行っています。

このように、子どもと一緒に訓練を行うことで、大人も参加し、住民一体となって訓練を行うことができました。



(小学生を交えた訓練の打ち合わせの様子)



(津波避難訓練の様子)

防災知識を“楽しく”身につける

自ら命を守る知識を楽しく身につけていただくために、稲むらの火の館等の防災関連施設の見学などのイベントを計画しています。

施設見学後には美味しい食事をして帰ってくるというように、必ず“楽しみ”を入れた形でイベントを企画し、住民全員の参加を促しています。

へいしま
平島地区自主防災会
(徳島県石井町)

おきつ
興津地区自主防災組織
(高知県四万十町)

防災訓練は地域との交流の場

毎年実施している総合防災訓練では、マンネリ化しないために、「参加者が行動し、見て、聞いて、触れて体験する」をモットーに避難誘導訓練に加えて、非常食作り体験やロープの結び方講習などを実施し、複数種目による訓練を実施しています。

さらに、訓練では防災に関する内容のみにとらわれず、地域の愛好会によるオカリナの演奏会、地元大学生によるマンドリンの演奏会やポップコーン作りなども行い、防災訓練を住民の親睦・ふれあい・交流の場と位置づけ、全員参加実現のため趣向を凝らし訓練を行っております。

地域へ活動内容を発信

広報活動にも力を入れて取り組んでいます。毎年活動実績や家具の転倒防止など防災に関する啓発内容などを「かわら版」としてまとめ、地区の全世帯に配布しており、平成 20 年度から現在まで9回発行しています。

さらに、地元ケーブルテレビの協力を得て、総合防災訓練などの活動の様子などを繰り返し放送してもらい、住民に自主防災会の活動について意識してもらうよう行っております。

今後の活動について

今後も様々な団体の方々と交流し、ご協力いただき、「見て」「聞いて」「触れて」をコンセプトに積極的に取り組み、地域の自助・共助及び連帯意識の確立に努めていきたいと思っております。



(各県の自主防災組織代表者)

町施設の高台移転の要望

当組織では、高知大学の岡村教授から指導をいただき、地震・津波に強い地域作りを行っています。岡村教授から、地区の保育所・デイサービスセンターを高台へ移転することの指摘を受け、高台移転を実現させました。

また、その他にも避難タワーや避難路の整備など、行政と一体となって進めています。

地元の小学校と連携した防災活動

平成 17 年から地元の興津小学校と連携して活動を行っています。児童が書いた「海拔シール」を地区の 110 本の電柱に貼り付けたり、防災サバイバルキャンプを実施するなど、年間を通して絶え間なく取り組みを続けています。

平成 23 年度からは、京都大学矢守教授の協力により、「動画カルテ」を作成しました。これは、一人ひとりが自宅から最寄の避難場所までの経路及びタイムを計測し、ビデオで記録するというものです。

記録したものを基に高齢者や身体が不自由な方が避難するための方法や、どのようなハード整備が必要になるかなどについて地域住民と小学生が一体となって考えました。

今後の活動について

今後の活動については、高台移転や避難路整備の要望などのハード対策から、住民の防災意識向上などのソフト対策に重点をおいて取り組んでいこうと思っています。

ソフト対策としては、これまで行ってきた学校と連携した防災対策の継続とともに、広報活動により住民に対して啓発を行っていくことを考えております。

これからも自助・共助・公助の意識を地域全体で根付かせ、興津地区防災文化を創造していきたいと思っております。

かめやま防災ネットワーク (三重県亀山市)

かめやま防災ネットワークについて

かめやま防災ネットワークは、「みえ防災コーディネーター」(三重県が実施している防災コーディネーター育成講座を受けた方々)を中心に平成19年に組織しました。

地元小学校で防災教育を実施

地元小学校の校長、教頭を直接訪問し、防災に関する授業を行うことを提案し、3年前から、地元の井田川小学校で「子ども防災土クラブ活動」として小学生に防災教育を継続して行っています。

今年度は「継続と更なる展開」をモットーに、他の3つの小学校へ活動を拡大しました。

授業の内容としては、放課後に1時間程度で、防災クイズや防災すごろくなどを行っています。また、下校時のまち歩きを通した危険箇所の確認や避難訓練、防災倉庫の備品について学習したり様々な授業も行っています。実施内容も小学生に楽しく学んでいただくよう毎回工夫を凝らして実施しています。

地域で防災出前講座を開催

地域住民への防災啓発活動として、亀山市の地元自治会や自主防災組織などを対象に防災出前講座を行っています。防災講話、防災クイズ、HUG(避難所運営ゲーム)以外に地域の防災マップを使ったジグソーパズルを行うなど様々な内容で行っています。

今後の活動について

今後は、地元小学校への防災教育の継続し、他の小学校への更なる展開を進めて行くとともに、中学校への防災教育や女性のための防災教室などを実施したいと考えております。

また、地域への啓発活動として、避難所単位でのHUGの実施や各自治会での防災講座を継続して実施していきたいと思っています。

○パネルディスカッション

三重大学大学院工学研究科 川口准教授がコーディネーターになり、パネルディスカッションが行われました。参加した会場の自主防災組織から各県の代表への質疑応答の一部について紹介します。



(パネルディスカッションの様子)

【質疑応答】

① 避難訓練時の安全対策はどうしているか?

(各県代表の自主防災組織回答)

- ・住民に注意喚起を行うとともに、避難誘導班長と班員が誘導を行っている。
- ・警察、消防職員が要所で立って安全確保を行っている。
- ・子どもパトロール隊を組織し、各要所に旗を持って立ち、安全確保を行っている。

② 自主防災組織で災害時要援護者に関するマニュアルを作成するのはどうか?

(三重大学 川口准教授 回答)

マニュアルを作成するのはいいが、作って安心してしまうのではなく、大切なのは、「どんな課題があって、どんなことに取り組むべきか、残された課題は何なのか」ということを常に意識し、課題に取り組んでいくことが重要です。

トピックス 防災・きのくに東西南北

岡崎地区防災会の活動について
(和歌山市)

岡崎地区では、13の単位自治会が協力し、岡崎地区防災会として活動しています。岡崎地区防災会が毎年行っている訓練と今後の活動について紹介します。

~~~~~

## 岡崎地区について

岡崎地区は、和歌山市の東部に位置しており、地区の南側に和田川を擁し、その北側には田園が広がっています。地区には、歴史的に貴重な神社、仏閣が点在し、古墳や遺跡も多数発掘され、貴重な歴史が残っています。和田川の北側の田園地帯では、大雨が降ると浸水被害が多発し、特に昨年の平成24年6月22日の大雨では、報道で全国的に取り上げられました。

岡崎地区の自治会組織は、13の単位自治会で連合自治会を形成しています。岡崎地区防災会は、連合自治会の下部組織として位置づけられます。連合自治会の各団体と互いに労い合い、「地域づくりは横の連携と絆を強めていくことが大切」ということをテーマに日々活動しています。

## 岡崎地区防災会の取り組みについて

岡崎地区防災会は、平成20年に100万円の補助金を受け、防災器具を購入したことを契機に、本格的に活動を始めました。**岡崎地区自治会、防災会、消防団の3つの団体が協力し、半年間十数回協議を重ね、防災訓練を毎年行っています。**防災訓練では、炊き出し、地震体験車による地震体験、消防団による100m以上のホースを用いた消火訓練など多種多様な訓練を行っており、毎回約400人～500人が参加します。



(消火訓練の様子)

訓練の協議の中での一番のテーマは、訓練を通じて住民の防災意識をどのように高めるかということにあります。**住民に「自分の命は自分で守る」という意識を持ってもらい、地域全体の自助、共助の意識を高めてもらうため、訓練時には参加者全員に各家庭から避難場所までの避難路と安全確認をするように呼びかけています。**

東日本大震災以降は、住民の防災意識がこれまで以上に高まりました。平成24年9月には、3.11に学ぶ研修会を開催しました。研修会では、東北の被災地を訪問した国、県庁、市役所の議員の先生方や消防署職員の方々を講師として招き、被災地の現状や災害時の行政の取り組み等を学びました。この研修会を開いたことで、今後の地域で取り組むべき防災活動のヒントを得ることができました。

また、平成23年度には、岡崎地区の単位自治会の1つである小手穂自治会が、和歌山県が実施した自主防災組織活性化事業を受けました。地震・津波の基礎講座、まち歩きによる地区の危険箇所の確認や家具固定講習など、地域での防災活動に役立つ知識について講習を受けました。

現在、小手穂自治会長が中心となり、単位自治会ごとの自主防災体制の整備、規約の作成に取り組んでいます。小手穂自治会の取り組みを他の単位自治会に広げ、一人でも岡崎地区で犠牲者が出ないように目指していきたいです。

## 今後の取り組みについて

近い将来起こるとされている東海・東南海・南海地震をはじめ、台風などの水害や土砂災害などの自然災害から一人ひとりが身を守り、**「地域の防災力」を高めるために、地域全体で防災教育に取り組みたい**と考えております。また、**学校施設は、災害時に地域の防災拠点としての機能が期待されることから、学校と協力し、地域社会・学校・家庭が連携した避難訓練の実施も**考えています。今後も積極的に防災訓練に取り組み、「東日本大震災を忘れない、風化させない」を合言葉に活動していきたいと思っております。

原稿提供：岡崎地区防災会 堤 文雄 様

てんけん  
伝建地区自主防災組織連絡協議会の活動  
(湯浅町)

伝建地区自主防災組織連絡協議会で実施した「まち歩き」を通じた地区独自の防災マップ作りや要援護者避難を重点においた避難訓練について紹介します。

~~~~~

伝建地区自主防災組織連絡協議会について

伝建地区自主防災組織連絡協議会は北町自主防災組織、北浜町自主防災組織、北中町自主防災組織、北鍛冶町自主防災組織の4地区の自主防災組織の連合体として組織しています。伝建地区は、醤油や金山寺味噌の製造で栄えた「醸造の町」であり、商家など伝統的な建物が残る地区として、平成18年12月に重要伝統的建造物群保存地区に指定されました。「伝統的な町並みは自分たちで守る」を合言葉に、平成17年から次々と自主防災組織が結成され、平成23年4月には、さらに自主防災組織間の結束を固めることを目的に、本連絡協議会が発足しました。

火災対策で自主防災婦人部を組織

伝統的な木造家屋が密集する伝建地区では、火災の延焼をいかに最小限でくい止めるかということを重点におき、消火訓練に力を入れて取り組んでいます。男性だけでなく、女性も消火活動に参加いただくため、女性が扱いやすいよう比較的水圧が低い可搬式のポンプを整備し、北町自主防災婦人部を組織しています。

防災マップと海拔表示板の作成

伝建地区は海から数百メートルの場所に位置しており、南海トラフ沖で発生が考えられる東海・東南海・南海地震などの大規模地震による津波の被害も非常に懸念しています。

平成23年度には、県の自主防災組織活性化事業を活用しました。伝建地区内の各地域で「まち歩き」を実施し、一時避難場所までの経路、所要時間や危険箇所の確認など現地調査を行いました。その結果を踏まえ、一時避難場所の避難経路を示した伝建地区独自の防災マップを作成しました。さらに、このまち歩きの結果を地区に反映

すべく、避難経路を中心に、20箇所に海拔表示板を設置しました。海拔表示板には、津波一時避難場所への方向と距離、名称、現在地の海拔を表示しました。



(設置した看板)

町に設置した津波一時避難場所を示す看板。町の景観と合うように茶色の標識にしました。

要援護者対策に重点をおいた避難訓練

平成24年12月に湯浅警察署と合同で、要援護者対策を重点においた避難訓練を行いました。要援護者に設定した住民をリヤカー、車椅子、自動二輪車などを用いて、一時避難場所まで避難させるというものです。訓練後は、参加者全員で、それぞれの避難支援方法におけるメリット、デメリットについて話し合いを行いました。このように、訓練後、地域で話し合いの場を持つことで、地域住民の防災意識の高揚にも繋がります。訓練を行うということは、体に覚えさせるということだと思います。頭で考えることも重要ですが、災害時、行動に移せるかどうかは日ごろの訓練に大きく左右されると思います。こういった様々な工夫をこらして訓練を繰り返すことで、災害発生時には、被害を最小限に抑えられると思います。



(要援護者を設定して行った避難訓練の様子)

今後の活動について

今回は、地区内のみで訓練行いましたが、今後は行政や各関係機関と協力し、町全体で要援護者の避難訓練を行っていきたいと思います。

また、避難訓練を継続的に行うだけでなく、避難所生活のあり方についても考えていき、住民主体の防災対策に取り組んでいきます。

原稿提供：伝建地区自主防災組織連絡協議会 半邊 宗五 様

かみなかしま
上中島地区自主防災組織の活動
(有田川町)

上中島地区では、避難訓練を通して住民に避難行動の意識付けを実施することにより、平成 23 年の台風 12 号時には、速やかに避難することができました。上中島地区自主防災組織の活動について紹介します。

~~~~~

**上中島地区自主防災組織について**

上中島地区は、有田川の南側、田殿地区の一番西に位置しており、世帯数 123 世帯、人口約 450 人の地区です。

昭和 28 年の 7、18 水害では地区全体が浸水し、大きな被害が出ました。そのため、区民の防災に対する意識、特に水害に対する意識は以前から高いものがありました。当時のことを鮮明に記憶している区民が多く、またそれを語り継いできた土地もあり、自主防災組織への取り組みも非常に早く、かつ熱心に進めて行くことができました。上中島地区自主防災組織については、平成 17 年 11 月に結成され、区会や消防団、役場などと連携し、毎年の訓練等積極的な活動を行っています。

**訓練を通じて避難行動の意識付け**

自主防災組織結成後は、消火訓練、救命講習、地震体験等を毎年欠かさず実施し、自主的に防災活動を行い、区民の防災意識向上に努めています。

また、平成 23 年度は、有田川町の指定避難場所である地域交流センター「アレック」への避難訓練を関係機関協力のもと実施することができました。**「指定避難場所のアレックに集合し、まず、点呼と安否確認を実施する」というように、災害発生時、避難行動をどのようにするのか、訓練を通して意識付けを行いました。**



(消防職員による消火訓練の様子)

訓練後、町職員の防災講話と防災懇談会を実施しました。防災懇談会の中では、避難訓練での各班ごとに、家の周りでの危険箇所や隣近所での安否確認の方法などについて話し合いました。

**訓練に参加した区民全員で、話し合うことにより「自分の身は自分で守る」「自分たちの町は自分たちで力を合わせて守る」「被害を最小限に抑える」という共通意識を持てたと考えています。**



(救命講習の様子)

**平成 23 年台風第 12 号時の対応**

その避難訓練からわずか 2 カ月後、訓練ではなく実際に避難活動を行うこととなりました。

平成 23 年 9 月 4 日午前 1 時 40 分、上中島地区に避難勧告が発令され、区民の多くが指定避難場所となっているアレックへと向かいました。アレックでは、訓練と同様に約 300 人が各班ごとに整列し、点呼と安否確認を実施しました。

その時点で、**「ほぼすべての区民が避難できたこと、そして避難所での節度ある行動、夜が明けて避難勧告が解除され、安全が確認できてからの帰宅するなど、ほぼ訓練通りに区民が避難できたことは非常に嬉しいことでした。」**

**今後の取り組みについて**

当地区では、消火訓練や避難訓練など毎年メニューを変えながら防災訓練を実施しています。

役員も 2 年を 1 クールとして入れ替わりながら、区民全体が防災に対する意識と責任感を高く持ち続けられるよう様々な活動を行っています。

今後も大規模災害発生時に柔軟な対応を行い、被害を最小限に抑えることができるように様々な取り組みを進めていきたいと考えています。

原稿提供：有田川町

えすみ  
江住自主防災会の活動について  
(すさみ町)

地区の約半数が高齢者である江住自主防災会では、高齢者の避難を課題として日々活動を行っています。今回は、江住自主防災会が高齢者の避難対策のため取り組んでいる避難路整備などの活動内容について紹介します。

~~~~~

江住自主防災会について

すさみ町の174平方kmには38地区が点在しており、江住地区は海岸線に位置し、町内で人口が3番目に多い351人が暮らす地区であり、(H24.4.1現在、すさみ町全体の人口は4,764人)昭和34年にすさみ町に合併しました。

江住地区は、昔から郷土愛に満ち、隣近所がお互い助け合う気質を持っており、自助・共助の精神を兼ね備えた地区であります。平成18年1月から始まったすさみ町での自主防災組織化についても、江住地区では早い段階から取り組み、平成18年4月に江住自主防災会を結成しました。

高齢者の避難対策で避難路を整備

江住地区の高齢化率は48.4%(すさみ町全体では41.0%)となっており、高齢者の避難が課題です。まず、**高齢者が津波から逃げるには、資機材の備蓄とともに、身近な高台に行くための避難路の設置が必要**と考えました。そこで、江住自主防災会では、すさみ町に要望を行い、**すさみ町は平成23・24年度の2年で地区内の避難場所3カ所全てに、県のパワーアップ補助金を活用して津波避難路を整備**することを決めました。

今後は、平成27年完成予定の高速道路に直結する避難路整備についても、関係機関に働きかけ実現したいと考えています。



(炊き出し訓練の様子)

また、防災訓練を毎年実施しており、昨年7月末には4県合同津波避難訓練の際に、区民総出で消化訓練・炊き出し訓練を実施しました。

摂南大学と共同で防災対策を検討

昨年から江住自主防災会では、大阪府寝屋川市の摂南大学の学生と協力し、防災対策を考えています。

「江住における人的被害軽減のための津波避難対策の考察」をテーマに、**学生が避難場所の確認や地元住民の聞き取りを通して、江住地区の防災対策について考え、学生目線での防災対策案の提示をしていただき、江住自主防災会、すさみ町と学生で会議を開き、意見交換を行いました。**

今後は、江住自主防災会とすさみ町と摂南大学が連携し、互いの考えや提案に耳を傾け、江住地区の防災・減災対策の向上を図ることができればと願っています。



(摂南大学の学生との会議の様子)

今後の取り組みについて

幸い江住区には海拔20m以上の高台に小学校・中学校の公共施設があり、被災後の活動拠点としての利活用を見込んでいます。

東海・東南海・南海地震などの大規模災害に備えて、いつでもどこでも日々の生活の中に備えが必要です。備えには、備蓄品や資機材整備以外に訓練参加や避難所の確認も含まれます。**一人ひとりの備えが家族の備えになり、それが地区や町の防災・減災力につながっていくと思います。**

2人に1人が高齢者である江住地区では、年々高齢者の高台への避難は難しくなると予想されますが、今後とも地区をあげて自助・共助精神の醸成に取り組んでいきたいと考えています。

原稿提供：江住自主防災会 大竹 繁和 様

「出張！県政おはなし講座」のご案内

県庁総合防災課では、「東海・東南海・南海地震について」をテーマに、東海・東南海・南海地震等の大規模災害の想定や、県の防災・減災対策の取り組みについて説明を行う出前講座を実施しています。地域や企業での学習会などで、是非ともご活用ください。

【ご利用案内】

- ・県内在住、もしくは通勤・通学している15名以上のグループが対象
- ・日時をご希望に応じます。（土曜、日曜、祝日、夜間可）
※ あらかじめ電話等で調整をお願いします。
- ・県職員の派遣や配布資料等の作成は県で負担いたします。
（会場の手配やそれに係る費用は、申込者の負担となります。）

【お申し込み方法】

県庁総合防災課まで申込用紙を送付してください。（郵送、FAX、電子メールにて）
↓ 申込書は下記URLからダウンロードしてください。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/shuttyou/>

※ 日程調整等のため、実施希望日の1ヵ月前までにお申し込みをお願いします。

【お申し込み先】

〒640-8585

和歌山市小松原通1-1

和歌山県庁危機管理局総合防災課 防災企画班

TEL：073-441-2271

FAX：073-422-7652

E-mail：e0114001@pref.wakayama.lg.jp



（出張！県政おはなし講座の様子）

「きのくに自主防災」に掲載する防災活動事例を募集しています！

「きのくに自主防災」では、地域で防災活動に取り組まれている皆様の活動事例を募集しています。紀伊半島大水害の体験談や学校と連携した防災活動などユニークな活動事例などをご紹介いただける場合は、下記の電話番号までご連絡をお願いします。

※ 紙面の都合上によりご紹介いただいたものすべてを掲載できない場合もございますので、予めご了承ください。

【お問い合わせ先】

和歌山県庁危機管理局総合防災課 防災企画班

TEL：073-441-2271 FAX：073-422-7652

この会報誌は和歌山県ホームページにも掲載されています。（カラー版）

URL：<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/bousai/jisyubou/jisyubou.html>